



平成27年5月8日

各位

上場会社名 株式会社 タカギセイコー
 代表者 代表取締役社長 八十島 清吉
 (コード番号 4242)
 問合せ先責任者 取締役最高財務責任者 石黒 勝己
 (TEL 0766-24-5522)

特別損失の計上、繰延税金資産の取り崩し及び業績予想の修正 並びに役員報酬等の減額に関するお知らせ

当社は、平成27年3月期通期連結会計期間において減損処理等に伴う特別損失を計上するとともに繰延税金資産の取り崩しを行うことといたしましたのでお知らせいたします。

また、上記理由及び最近の業績動向を踏まえ、平成27年3月6日に公表しました業績予想を下記の通り修正するとともに、役員報酬等の減額につきましてもお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	47,560	280	120	△2,100	△155.98
今回修正予想(B)	50,650	110	△70	△4,110	△305.27
増減額(B-A)	3,090	△170	△190	△2,010	
増減率(%)	6.5	△60.7	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	52,508	649	412	202	15.01

修正の理由

1. 特別損失の計上

平成26年12月12日開示の「構造改革計画の策定に関するお知らせ」の中長期的対応方針に記載の「国内生産拠点の再編成」により、松本分工場(長野県松本市)の閉鎖を決定し、同工場が保有する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、約192百万円を構造改革費用として特別損失に計上いたします。

また、インドネシアにおける生産拠点の再編成に伴う固定資産の除却損約76百万円及び最適人員配置に伴う退職金等約99百万円につきましても、構造改革費用として特別損失に計上いたします。

2. 繰延税金資産の取り崩しについて

平成27年3月期末において当期及び今後の業績動向を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額に約1,537百万円を計上いたします。

なお、本会計処理は実質的な支出を伴わず、当社のキャッシュ・フローに影響を及ぼすものではありません。

3. 業績予想の修正の理由

平成27年3月期通期連結会計期間の売上高は、邦貨換算の影響により前回発表の47,560百万円を6.5%上回る50,650百万円の見通しとなりました。しかしながら損益面では、インドネシアにおける二輪及び四輪自動車の販売減少に伴う減収及びルビア安に伴う輸入原材料等の高騰等による減益により、営業利益は前回発表の280百万円を60.7%下回る110百万円、経常利益は前回発表の数値を下回る経常損失70百万円(前回発表数値は、経常利益120百万円)、当期純利益は上記の特別損失計上及び繰延税金資産の取り崩し等もあり、前回発表の数値を大幅に下回る当期純損失4,110百万円(前回発表数値は、当期純損失2,100百万円)の見通しとなりました。

役員報酬等の減額

今般の業績予想の修正を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、役員報酬等の減額幅を拡大させます。

(1) 役員報酬等の減額の内容

- ・代表取締役 … 報酬月額50%を減額
- ・取締役 … 報酬月額の25～30%を減額
- ・執行役員 … 報酬月額20%を減額

(2) 監査役報酬の自主返上内容

- ・報酬月額15%を返上

(3) 対象期間

- ・平成27年5月から当面の間

当社は現在、安定して継続的に事業展開できる体制の構築に向け、昨年12月12日に開示しました構造改革に取り組んでおります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上